

市内ベイエリアの 将来のあり方について

2025年9月10日

大阪府・大阪市

上位計画など

市内バイエリアに関する上位計画①

大阪のまちづくりグランドデザイン

『大阪のまちづくりグランドデザイン』において、夢洲・咲洲エリアのまちづくりは、『世界で存在感を発揮する拠点エリア』として位置付けられ、国際観光拠点の形成をめざすこととしている。

大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市 令和4(2022)年12月策定）

戦略1) 成長・発展をけん引する拠点エリアを形成

1) 世界で存在感を発揮する拠点エリア

広域的な鉄道や高速道路などの都市基盤が充実し、高次都市機能が集積している大阪の「都心部」や、空港、港湾などから世界・アジアとつながる「バイエリア」において、国際的な業務や観光、交流機能等を備えた、国内外から多様な人々を呼び込む、世界で存在感を発揮する国際競争力を備えた拠点エリアを形成

夢洲・咲洲エリア

・2025年に開催される大阪・関西万博のインパクトを活かした、夢洲での国際観光拠点の形成や、研究開発施設が集積する咲洲、スポーツ・レクリエーション施設を有する舞洲をはじめ、天保山・築港、此花西部、鶴浜などとの連携強化により臨海部全体の魅力向上を図るとともに、都心部との鉄道や道路、舟運などの多彩なアクセスを実現することにより、都心部と臨海部が両輪となって大阪の成長をけん引する国際観光・国際物流・国際交流及び研究開発拠点エリアの形成をめざします。

- 国際観光拠点の形成
- 大阪港における国際コンテナ戦略港湾としての機能強化
- 人・モノ・情報の交流拠点の形成
- スマートなまちづくり
- 交通アクセスの強化・利便性の向上による周辺臨海部・都心部との連携強化



夢洲・咲洲エリア



世界で存在感を発揮する拠点エリア

出典：大阪のまちづくりグランドデザイン

市内バイエリアに関する上位計画②

大阪広域バイエリアまちづくりビジョン(案)

『大阪広域バイエリアまちづくりビジョン(案)』において、「夢洲・咲洲」及び「築港・天保山」を重点エリアに位置付け。国際観光・交流の促進、スマートなまちづくりの促進をはかることとしている。

大阪広域バイエリアまちづくりビジョン(案) (大阪広域バイエリアまちづくり推進本部 令和3(2021)年8月策定)

「大阪広域バイエリアがめざすべき姿」の実現に向け、“みがく”、“つなぐ”、“広げる”、“育てる”取組みについて、順に示す。
 なお、“みがく”取組みについては下図の5つの地区ごとの取組みを示すとともに、既にまちづくりが進んでいるエリアや今後更なる活性化が期待されるエリアのうち、特に重点的に取組むエリア(重点エリア)を示すものとする。

【重点エリア】

<夢洲・咲洲>

- 大阪の成長をけん引するIRを核とした新たな国際観光拠点の形成
- 大阪の成長を支える国際物流拠点の充実
- バイエリアの各地区との連携によるさらなる経済振興・都市魅力の向上



夢洲

「夢洲まちづくり基本方針」

○コンセプト

SMART RESORT CITY
 ～夢と創造に出会える未来都市～
 「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取り組みによって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図る。

○土地利用の方針

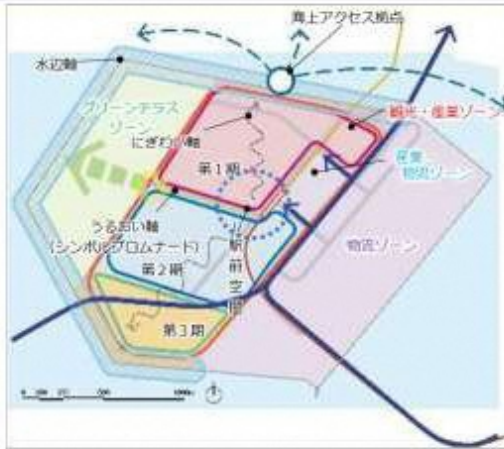
- 第1期 統合型リゾートを中心としたまちづくり
- 第2期 万博の理念を継承したまちづくり
- 第3期 第1・2期の取組みを活かした長期滞在型のまちづくり

○インフラ等の整備方針(海上アクセス拠点)

開港はもとより、多くの他のエリアからのアプローチを可能とする海上アクセス拠点を、臨海緑地との一体性に配慮しながら北摂水圏域に整備

○スマートなまちづくり

最先端のスマート技術やエリアマネジメントにより、緊急時には行政とも連動して連携できるよう平時から取組みを進め、安全・安心なまちを実現



【重点エリア】

<築港・天保山>

- 民間活力を導入した天保山客船ターミナルの整備と運営
- みなとオアシス大阪港・天保山を拠点とした水辺のにぎわい形成及び様々な社会実験等の取組みの推進
- エリア内の資源を活用した観光集客力の強化と回遊性向上にむけた取組みの推進
- 花の海遊ロード美化協議会の取組みをはじめとした美化修景の取組みの推進
- 天保山公園等の公共空間の利活用の推進
- 港町ならではの居住魅力の発信及び住宅供給の拡大にむけた取組みの推進



「築港・天保山まちづくり計画」

○コンセプト

「毎日が宝探し」

○基本方針

暮らし：自由なライフスタイルの組み立て方を見る化し、発信する
 遊ぶ：エリア外からの来訪者の増加、定着を狙う
 働く：起業・創業しやすい環境を作る



出典：画像はすべて大阪市提供



クローズ客船 (クワン・オブ・ザ・シーズ)



天保山客船ターミナルの整備イメージ



天保山ハーバービレッジ



天保山まつり

市内バイエリアに関する上位計画③

大阪のスーパーシティ構想

スーパーシティ型国家戦略特区（令和4（2022）年4月）

- ・スーパーシティは、住民が参画し、住民目線での、未来社会の先行実現をめざすもの
- ・国において大胆な規制改革と併せ、データ連携基盤を活用して複数分野の先端的服务を提供する「スーパーシティ型国家戦略特区」を設け、令和4年4月に大阪府大阪市と茨城県つくば市が指定（全国で2か所のみ）

大阪スーパーシティ全体計画（令和4（2022）年12月）

「データで広げる“健康といのち”」をテーマとして、2つのグリーンフィールドで3つのプロジェクトを展開

○2つのグリーンフィールド

- ・夢洲
- ・うめきた2期



出典：大阪スーパーシティ全体計画



○夢洲での2つのプロジェクト

2023年度～

夢洲コンストラクション：3つの円滑化を推進

「建設工事現場内外の移動、建設工事及び資材運搬、建設作業員の安全・健康管理」

2025年度

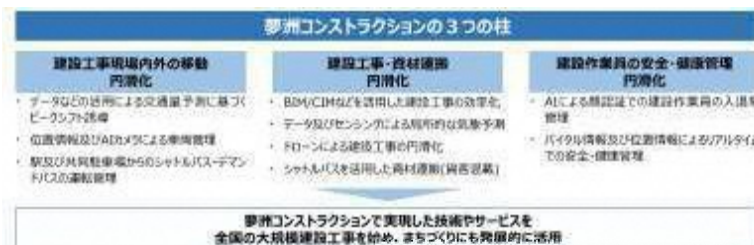
大阪・関西万博

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

「いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ」

○夢洲コンストラクション

- ・夢洲では、大阪・関西万博の開催に向け、会場整備やインフラ整備などの建設工事を円滑に行うため、工事車両の渋滞対策や作業員の円滑な移動などに取り組む。
- ・i-Constructionの取組をデータ（BIM/CIM含む）とデータ連携基盤の活用により一層発展させる。
- ・グリーンフィールドである夢洲を実証の場に、最先端技術の活用による建設工事の安全かつ円滑な実施を通して、QoLを高める技術の創出を推進し、将来のまちづくりに活かしていく。



出典：大阪スーパーシティ全体計画

○大阪・関西万博

4つの特徴的な先端的服务、多様な取組



出典：大阪スーパーシティ全体計画

Beyond Expo 2025

—検討状況—

出典：2024.9.13 第14回副首都推進本部（大阪府市）会議
【資料2】Beyond EXPO 2025 ～万博後の大阪の未来に向けて～
一部加工

3 今後の進め方

- 万博後に速やかに大阪の成長に向けた取組みを実行に移すため、**府市一体の「大阪の成長戦略」を作成する。**
- 策定にあたっては、「万博レガシー」の継承や、「世界で存在感を発揮する国際都市・大阪」の実現も踏まえた戦略とする。
戦略期間は10年(2035年)とし、5年後に見直しを行う。
- 成長戦略は、知事を本部長、市長を副本部長とする**副首都推進本部(大阪府市)会議**で議論を進める。
- 具体的には、「**成長への道筋(第一部)**」と「**具体的取組(第二部)**」の2つの視点から検討。**あわせて、「将来の大阪の姿(当面2030年)」「(第三部)」についても示す。**
- 全体の進捗管理を行うため、副首都推進局、府政策企画部、市政政策企画室からなる「**成長戦略検討チーム(仮)**」を設置。

【成長への道筋】（第一部）

- ・経済情勢や「大阪の強み」等の分析を行い、副首都ビジョンの目標達成に向けた「成長への道筋」の内容を明らかにする。
- ・府政策企画部において検討。

【具体的取組】（第二部）

- ・万博後の大阪の成長に向けて、強力に進めるべき分野について、「**府市合同タスクフォース**」を設置し、民間等において取り組むべきものも含め、具体的施策を検討。

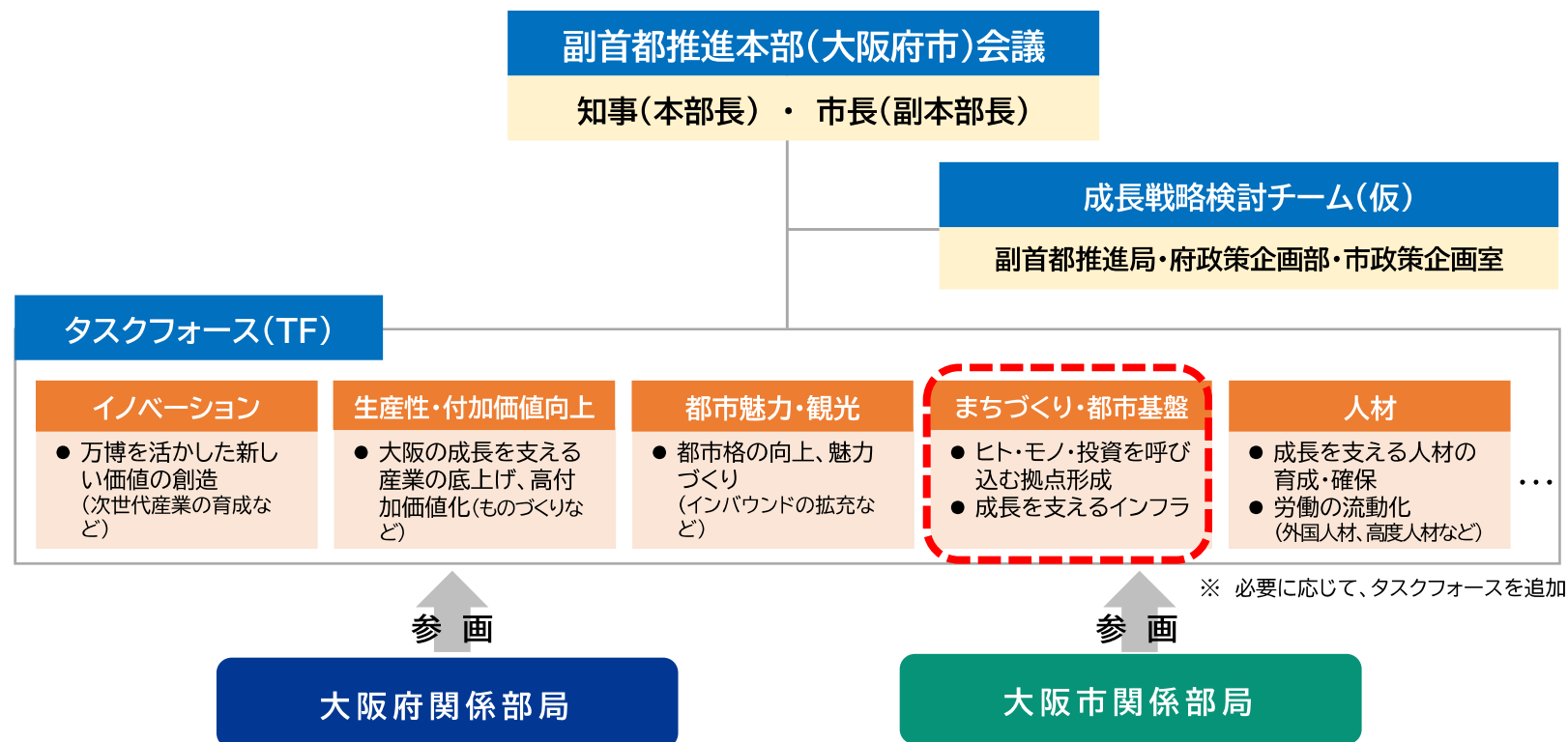
【将来の大阪の姿(仮)】（第三部）

- ・成長戦略を実行後の大阪の姿について、「産業」、「暮らし」、「都市格」などの観点から「将来の大阪の姿(当面2030年)」を取りまとめ。
- ・副首都推進局、府政策企画部を中心に検討

出典：2024.9.13 第14回副首都推進本部（大阪府市）会議
【資料2】 Beyond EXPO 2025 ～万博後の大阪の未来に向けて～
一部加工

3 「具体的取組」の検討体制(案)

- 「府市合同タスクフォース(TF)」の全体調整や進捗管理を行う「成長戦略検討チーム(仮)」を副首都推進本部(大阪府市)会議の下に設置。



Ⅱ 万博後の持続的な成長に向けた道筋 ～ 取組みの方向性 ～

- 副首都ビジョンで掲げる「チャレンジを促す経済政策」や「チャレンジを後押しする機能」、「暮らしやすさ、働きやすさ、楽しさを高める機能」、「都市としてのベーシックな機能」の充実を進めていくにあたり、万博のインパクトを最大限活用して、「Beyond EXPO 2025」において取り組むべき項目(たたき台)を整理

◆成長を押し上げるために取り組む項目(たたき台)

1. 投資を呼び込む

- 例) ・万博で披露される新技術・製品の社会実装・産業化の促進
・スタートアップの創出・成長の促進
・国内外からの投資の呼び込みの強化

2. インバウンド需要を取り込む

- 例) ・「大阪の魅力」を活かした新たなコンテンツの創出
・おもてなし体制の充実
・ターゲットに刺さる魅力発信

3. 成長を加速する多様な人材の活躍、生産性の向上

- 例) ・新たな労働力の確保
・人材育成・キャリアアップの強化
・企業の経営革新

4. 成長を支える都市基盤の強化

- 例) ・成長インフラの整備（まちづくり、交通、空港 等）
・ベイエリアの活性化
・東西都市軸（夢洲周辺、大阪城公園周辺 等）の強化
・地域の拠点機能の強化

オール大阪で実行

持続的な成長（実質2%成長）
を実現し、
・賃上げ
・雇用創出
・DXを活用したQoLの向上
・教育・福祉の充実
・健康・医療への支援の強化
などへつなげていく

Ⅱ 万博後の持続的な成長に向けた道筋 ～4 成長を支える都市基盤の強化～

○これまで、府市一体で都市基盤整備を進めており、まちづくりやインフラ整備が進展

【まちづくり】うめきた2期一部先行まちびらき(2024年)、なんば駅周辺の歩行者空間先行オープン(2023年)
【道路】阪神高速大和川線全線開通(2020年)、府県間道路である国道371号の全線開通(2024年)
【鉄道】北大阪急行延伸(2024年) 【空港】ターミナル機能の強化(T1リノベ、T2拡張)

○今後、現在実施中のプロジェクトを着実に進めるとともに、新たな拠点形成に向けた各種動向の把握や様々なプロモーションによる民間投資の誘発を促進させ、国際競争力を高めるまちづくりを展開していくことが重要

【取組みの方向性(イメージ)】

現在実施中のまちづくり・インフラ整備を引き続き着実に推進するとともに、特に以下の取組みを推進

◆国際競争力の強化に資する拠点形成

- ・ バイエリアには魅力的な観光資源や国際的な物流・人流の拠点が集積。万博などを機に注目が集まり、次なる成長拠点として期待が高まる
- ・ これらの動きを止めることなく、集客交流機能と新産業を中心とした、民間投資を促すまちづくりにより、国際競争力を強化することが必要

バイエリアの活性化

◆都心部のポテンシャルの強化

- ・ これまでの取組みにより、南北都市軸(新大阪・大阪～中之島～なんば・天王寺など)における拠点形成が進展中
- ・ 加えて、今後大きく進展する夢洲周辺や大阪城公園周辺におけるまちづくりなどにより東西都市軸を強化することで、都市としてのポテンシャルを向上させることが重要

東西都市軸の強化

◆大阪の中核を担う拠点の強化

- ・ 都心部周辺等において、多くの都市ストックが更新時期を迎えている
- ・ これらの更新に合わせた計画的な都市の再構築など、府内の様々な地域において、多様な都市機能を備えた特色ある拠点エリアを形成していくことが重要

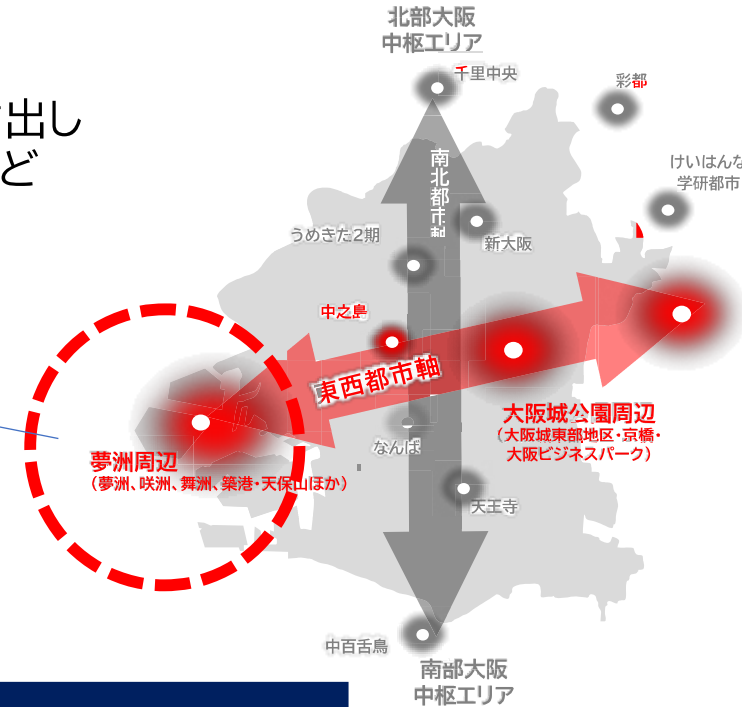
地域の拠点機能の強化

Beyondで描く市内ベイエリアについて(案)

対象エリア

- ・市内ベイエリアを「夢洲周辺地区」として打ち出し
- ・夢洲、咲洲、舞洲、築港・天保山、此花西部など

夢洲周辺の連携強化(イメージ)



万博後の持続的な成長に向けた道筋(案)

○大阪・関西万博のインパクトを活かした、夢洲での国際観光拠点の形成や、研究開発施設が集積する咲洲、スポーツ・レクリエーション施設を有する舞洲をはじめ、築港・天保山、此花西部、鶴浜などとの連携強化により臨海部全体の魅力向上を図るとともに、都心部との鉄道や道路、水上交通などの多彩なアクセスを実現することにより、都心部と臨海部が両輪となって大阪の成長をけん引する国際観光・国際物流・国際交流及び研究開発拠点エリアの形成をめざす。